

が急になってきて、沢幅もぐっと狭くなる。後はもう5m級の滝と小滝の広瀬である。

F.の8mを最後に滝は姿を消してしまうが、依然として沢は急である。10:20とうとう水は濁れてしまう。ヤブをこいで10:25尾根に立ち、右俣の遡行を終了。

10:30左俣の下降を開始。沢に降りた途端、5m級の滝2つの連続にぶつかる。シュリングの数は充分用意してきたが、アップザイレンを多用すると後で泣くことにもなりかねないので、アップザイレンは極力避けることにする。したがってここは沢の左岸のやせ尾根に取り付いて搦くことになった。

搦き終わって沢に降りると、またすぐ目の前が滝になった。ここもアップザイレンはやめて搦くことにするつもりが、途中で行きずまり、アップザイレンにて沢に戻る。するとまた7m程の滝が出て、これも搦くことにする。書き忘れたが、この沢は最初からナメと滝の連続する沢である。

このあとようやくクライミングダウンのできる小滝群の出現となって快適に下る。小滝群をぬけると10mのナメ滝となる。ここはとても搦けそうになく、2回目のアップザイレンをして切り抜ける。この後も小滝群が続く。

12:00二俣に着く。左俣は沢の中にいるよりも、搦いてヤブの中にいる時間の方が長かったかもしれない。

枯松沢は、小滝が無数に出てきて面白かったが、反面、遡行圏が混乱する記録者なかせの沢だった。

(記)

[タイム] 枯松沢出合(7:05)→二俣(9:25)→右俣終了(10:25)→左俣下降開始(10:30)→二俣(12:00)

中 枯 松 沢

1984年7月21日

L系

枯松沢の下降途中で、この中枯松沢に寄り道する。出合着13:50。

10分歩ほど歩くと最初の滝に出会う。問題なく通過。このあと急に沢幅が狭くなってきた。土砂くずれの跡があり、倒木やぬかるみに苦勞するようになる。

やがて、尾根が見え始める。雨が降ってきたのと、枯松沢の遡行で2人共かなり疲勞してきたので、尾根には登らず、ここで終了とする。結局、小滝が少しあるだけで、何もない沢だった。

(記)

[タイム] 中枯松沢出合(13:50)→遡行終了(15:20)

ワラジを履いている和泉さんもかなり苦勞している様子。フェルトの僕は、もっと苦勞してしまう。

8:25この沢を二つに分ける分岐に着く。ここで右俣と左俣の様子をうかがう。右俣に比べ左俣の水量が少ない。それに加えて右俣にはいきなり滝が出ているので、下降のことを考え、右俣を進行し左俣を下降とする。

右俣を遡るとすぐに4 m、5 m、4 mと滝が続く。いずれも直登。この辺から沢

